

常石造船 LPG船を発受注 三井E&Sと協業

常石造船

LPG船を初受注

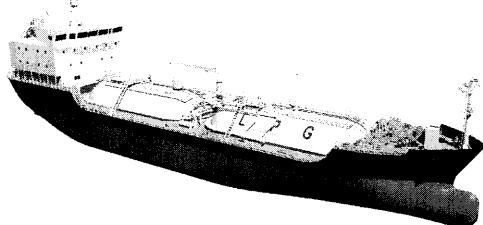
三井E&Sと協業

常石造船は3日、国内船主とLPG（液化石油ガス）船4隻の建造契約を締結したと発表した。船型は5000立方メートル型で、外航船となる。常石造船がLPG船を建造するのは初めて。関

船型開発し、LPGタンク、関連システムの設計・製造面などでも同社と協業する。第1船は、2023年に常石工場（広島県福山市）で竣工する。

受注した4隻は、標準
加圧式で、主要目は全長
約99尺、幅17・6尺、深
さ8尺、喫水6・1尺、
4800総t。推進抵抗
を低減する船体形状や最

新主機の搭載で、5000
t立方型クラスのLPG
G船の汎用的な主寸法を
踏襲しつつ、新造船燃費
規制EEDI（エネルギー
効率設計指標）フュ



常石造船が初建造する LPG船のイメージ図

常石造船は
商船建造拠点
として、常石
工場のほか、
海外で中国工
場（常石集團
〈舟山〉造船）

R(選択的触媒還元法)でNO_x(窒素酸化物)排出3次規制に対応する。

を搭載する。」
（窒素酸化物）
排出3次規制
に対応する。

フィリピン工場（ツネイシ・ヘビー・インダストリーズ／セブ）を展開する。常石工場ではこれまで8万2000重量トン型のカムサマックスバルカーなどを建造してきたが、中国造船などとの競争激化で採算が厳しいこと

ともあり苦戦。国内向けRORO船、小型LPG船、小型客船など競合しない船種の建造に方針転換した。

資本提携し、常石造船が三井E&S造船の株式49%を取得した。常石造船では三井E&S造船との関係強化で、今回のようないくつかの新規船種進出のほか、既存船型でのガス燃料料など今後新たな動きが出てくるとみられる。